

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	②-104	実施計画番号	130	事業開始年度	H19
事務事業名	十和田市高齢者等肉用牛導入事業			事業終了年度	
担当課名	農林畜産課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	十和田市高齢者等肉用牛導入事業基金条例等	関連事務事業			
背景や経緯等	市で購入した繁殖用雌牛を高齢者に5年間貸付し、畜産農家の子牛生産を支援する。				
事務事業の目的	肉用牛資源の確保を図るとともに、畜産振興のため高齢者等の肉用牛飼養知識及び経験を有効活用し、かつ福祉の向上を図る。				
実施状況	総合計画実施計画掲載事業のため記入しない。				

## 【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	2	2	2
	活動日数(日)	15	15	15
	人件費(千円)	1,080	1,080	1,080
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

## 【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		4,886	1,723	6,000

## 【指標】

活動指標	活動指標名①		肉用雌牛の貸付頭数(当該年度貸付頭数)			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			頭	9	3	10
	活動指標名②		平成19年度以降の貸付した全ての雌牛からその年度内に生まれた子牛の頭数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			頭	39	40	40
成果指標	成果指標名①		肉用雌牛の貸付頭数(当該年度貸付頭数)			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			頭	10	10	10
			実績値	9	3	
			達成度(%)	90%	30%	
	成果指標名②		平成19年度以降の貸付した全ての雌牛からその年度内に生まれた子牛の頭数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			頭	40	40	40
			実績値	39	40	
			達成度(%)	98%	100%	

# 十和田市事務事業評価シート

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
<b>妥当性</b>	①	<b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">高齢者等が肉用雌牛を購入し、家畜の生産活動が行えることは、高齢者の生きがいづくり等の福祉の向上を図るためにも有意義であり、肉用牛の増頭を図るためにも有効な事業である。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	高齢者等が肉用雌牛を購入し、家畜の生産活動が行えることは、高齢者の生きがいづくり等の福祉の向上を図るためにも有意義であり、肉用牛の増頭を図るためにも有効な事業である。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
高齢者等が肉用雌牛を購入し、家畜の生産活動が行えることは、高齢者の生きがいづくり等の福祉の向上を図るためにも有意義であり、肉用牛の増頭を図るためにも有効な事業である。										
②	<b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2						
<b>有効性</b>	③	<b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">4 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">最近の子牛市場価格の高騰により、上限額60万円では高齢者が希望する牛が購入することができない。 平成27年度に3頭しか購入できない原因である。 このような状況のままだと、事業の有効性が薄れるため、当該事業については、県の補助金交付要綱の縛りにより、上限額が60万円であることから、県に対してこの上限額を上げてほしい旨を要望しているところである。県では現在検討中とのことであった。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	4 / 6	最近の子牛市場価格の高騰により、上限額60万円では高齢者が希望する牛が購入することができない。 平成27年度に3頭しか購入できない原因である。 このような状況のままだと、事業の有効性が薄れるため、当該事業については、県の補助金交付要綱の縛りにより、上限額が60万円であることから、県に対してこの上限額を上げてほしい旨を要望しているところである。県では現在検討中とのことであった。	
	成果向上の余地	4 / 6								
	最近の子牛市場価格の高騰により、上限額60万円では高齢者が希望する牛が購入することができない。 平成27年度に3頭しか購入できない原因である。 このような状況のままだと、事業の有効性が薄れるため、当該事業については、県の補助金交付要綱の縛りにより、上限額が60万円であることから、県に対してこの上限額を上げてほしい旨を要望しているところである。県では現在検討中とのことであった。									
④	<b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1						
⑤	<b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	C	0						
<b>効率性</b>	⑥	<b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">高齢者が希望の雌牛を購入さえできれば、子牛の市場価格が高騰していることから、貸付を受けた高齢者等の家畜の生産活動に十分な効果があるものと期待される。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	高齢者が希望の雌牛を購入さえできれば、子牛の市場価格が高騰していることから、貸付を受けた高齢者等の家畜の生産活動に十分な効果があるものと期待される。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	高齢者が希望の雌牛を購入さえできれば、子牛の市場価格が高騰していることから、貸付を受けた高齢者等の家畜の生産活動に十分な効果があるものと期待される。									
⑦	<b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2						
⑧	<b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2						
<b>公平性</b>	⑨	<b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">当該事業の案件としては、1世帯・1頭、貸付期間は5年間となっており、原則、貸付金額を5年後にそのまま返金することとなっているため公平性に偏りは無い。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	当該事業の案件としては、1世帯・1頭、貸付期間は5年間となっており、原則、貸付金額を5年後にそのまま返金することとなっているため公平性に偏りは無い。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
当該事業の案件としては、1世帯・1頭、貸付期間は5年間となっており、原則、貸付金額を5年後にそのまま返金することとなっているため公平性に偏りは無い。										
⑩	<b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
<b>現在の適性</b>					<b>16 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>4 / 20</b>			

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **16** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **4** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

有効性を改善して継続

### 方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

県に対し現行の上限額を上げるよう要望し、効率的な購入・貸付ができるよう働きかけ、高齢者の生きがいづくりのための福祉の向上及び家畜の生産活動を促し、繁殖雌牛の増頭を図る。

### 今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

総合計画実施計画掲載事業のため記入しない。